

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホーム つばさ (1階, 2階 ユニット合同)		
所在地	静岡県焼津市田尻北790		
自己評価作成日	平成25年1月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiqokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2295100164-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各入居者様が日々の生活の中でこれまで培ってきた感性や能力を発揮してもらうことはもちろんのこと、ご家族との大切な時間も楽しんでいただけるよう花カフェや動物園へのバスハイクを実施している。また、毎月グループホーム内だけでなく隣接施設や地域行事などへのレクリエーションを企画し、多くの人々との交流が持てるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人の特養に隣接する場所に事業所は位置しています。外出レクが盛んで毎月あり「～を見に行こう」の声掛けで参加が叶い、利用者作品が展示されている「青少年の家祭り」などにも出掛け、社会性を蘇えらせる取組みがあります。また、散歩での挨拶には、地域が明るくなったと褒められ励みになっていて、ケアサービスの質の高まりに繋がっています。文書管理面にも卓越していて、特に掃除換気、室温・湿度、冷蔵・冷凍庫内温度などまでもが徹底的に記録された衛生管理点検表や、職員一人ひとりの体調から服装、履き物、毛髪、爪に至るまでの自己チェック表など、確認のための手立てが確立されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に全職員で理念を作成。会議の都度振り返りを行っている。平成24年度認知症介護実践研修(実践リーダー研修)の自施設実習では全職員の想いを確認した。	理念は玄関の目立つ所に掲げられ、また会議でも話し合い、常に立ち戻る原点として位置づけられています。実践リーダー研修で得た成果を、パワーポイントで作成し、内部研修へと繋げています。利用者と職員の良好な関係も深く、理念の浸透度はサービスに反映されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われるイベントには極力参加している。グループホーム夏祭りの開催時には地域に向けちらしの配布を行い、地域の方々の来訪も実現した。	園芸ボランティアの来設が毎月あります。夏祭りには自治会が回覧板で周知してくれたおかげで、ゲーム、大正琴、無料マッサージに50名ほどの参加があり大成功を収めました。餅つき大会では近所の婦人会が手なれた手返しなどを披露してくれ、職員にも大いに勉強になりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はまだ取り組んでいない。今後活動していけるよう認知症サポーター養成講座を受講している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災訓練や献立などを見てもらい、助言をいただいている。また、グループホーム夏祭りの開催については、地域へのちらしの配布について助言・協力をいただいた。	2ヶ月に1度、自治会代表、地域包括、民生委員、介護相談員、家族代表など10名ほどが参加し盛会に開催しています。パワーポイントによる報告も取り入れています。併催の防災訓練の講評や新聞記事の提供など、記録からも参加者の参画意識の高さが覗えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて報告。また適宜連絡を取っている。	運営推進会議には市担当者、地域包括の出席が必ずあり、議事録も担当者に届けるなど馴染みの関係にあり、相談しやすく円滑な連携が図られています。グループホーム連絡会が3ヶ月に1度あり、意見交換も盛んで、サービス向上に活かしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止の勉強会を開催している。特にスピーチロックについては毎月課題を決め、取り組んでいる。	身体拘束ゼロ宣言をしていて玄関施錠はありません。ゼロ宣言6カ条の基準について、毎月1カ条ずつテーマにして話し合いを持ち共有を図っています。マニュアルも完備し基本的な理解が出来ていて、スピーチロックなどには職員同士が注意し合える環境が出来ています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスから虐待に至ることのないよう注意している。対応が難しい入居者については話し合いを行い統一したケアを心掛けている。毎月高齢者虐待防止関連法について勉強会を開催している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ファイルを作成し、職員がいつでも閲覧し、学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時にアンケートや意見・要望の聞き取りを行っている。また、面会の際には必ず意見要望等の確認を行っている。	家族会アンケート、月に1回はある面会時、また年2回の行事に合わせた家族会で意見要望を聞けています。汲みあげられた意見には、管理者、計画作成担当、看護師が丁寧に対応しています。「つばさ便りに写真がない」との意見には、個人写真を届けることで意向に繋げています。	運営推進会議に家族代表の参加がありますが、参加されていない家族にも会議内容を伝え、家族間の情報の共有が図られることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回会議開催前には全ての職員にアンケートを取り、職員の意見や提案を聞いている。	介護技術の向上を目指し、チーム毎にテーマを決め其々勉強会を開いており、「何をやるか？」から「これをやりたい」に意識向上し、ケアにも変化が見られています。毎月の会議前アンケートや年間目標作成と達成の自己評価もあり、方向性を収束する仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月隣接施設の内部研修に参加。また、外部研修にも積極的に参加させている。参加後には報告会を開き、施設全体がレベルアップするよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	焼津市内のGH連絡会に参加している(1回/3ヶ月)。第三回日本認知症グループホーム大会参加。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成。 センター方式 B-3シートの記入		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会議において家族との関わりについても話し合いを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用、外出について家族に提案し、必要に応じて協力体制を整えている。	以前からの趣味である絵画、華道などを支援しており、書道展では入賞者も出ています。ダンスの先生だった利用者が職員と踊る姿もあります。家族、職員も一緒に外食することもあり、外出、外泊も日常化しています。馴染んだ介護相談員の訪問が毎月あり安心に繋がっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や助け合いの気持ちを大切に、必要に応じて職員が間に入るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者なし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2シートの記入	アセスメントはセンター方式を一部導入し、アレンジして使用しています。利用者の言葉の奥にあるもの、表出しにくいものを探り出す取組みがなされていて、日々の変化や発語は介護支援記録に記載し、また家族意向も重視しプラン見直しに活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望者調査資料の作成 センター方式 B-3シートの記入		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式 C-1-1、D-1、D-2シートの記入		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式によりケアチェックを行う。ケアチェックは各利用者の担当が行い、D-5シートには他5名の職員が記入。本人・家族からの意見の聞き取り。多くの人が関わり介護計画を作成している。	職員担当制を敷いていて、ケアチェック表に必要な事項を記入し見直しへの礎としています。サービス会議には家族も参加し、意向を述べていて、プラン変更の同意には書面上で署名をもらえています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた介護記録の記入を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する特養との交流。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りへの参加。スーパーへの買い物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報の共有。医師の往診あり。	母体の病院が協力医となり、医師の往診も毎週あり大きな安心となっていて、殆どの利用者が以前からのかかりつけ医から変更しています。薬は戻ってきた空き袋が配薬時と同じかチェックし、服薬時は職員が名前を呼び、個数も確認して、誤飲誤薬防止にも力を注いでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。往診時の結果についても看護職員から介護職員へ申し送りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携を図り、実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については適宜家族に確認。家族と方針を共有している。	入所時に出来ること、出来ないことの合意形成が出来ています。看取りの実績はなく、重度化には転所の相談で支援をしています。急変時にはマニュアルに添って行動し、半年に1回は急変時対応確認書で家族の気持ちを再確認しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習受講(心配蘇生法、AED)全体会にて勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備、定期的な防災訓練の実施。年2回は隣接の特養と合同で、地域住民にも協力を依頼し総合防災訓練を行っている。	隣接特養と合同の防災訓練が年2回あり、消防署立ち合いのもと1回は地震による火災・津波想定で行いました。毎月防火管理委員会があり、防災訓練設備点検と階段での避難訓練を実施しています。階段避難は洗濯干しなどで階段昇降を日常化させ有事に備えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。 スピーチロックの勉強会を実施するとともに、毎月課題を決め取り組んでいる。	接遇に終わりなしのポリシーを持ち、研修で徹底的に繰り返し、意識浸透を図っています。特にトイレの声掛けには、声の大きさに留意しています。職員同士が常に注意し合える風通しの良さを整えていて、利用者の尊厳を意識したケアに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。10時の飲み物提供の際にそれぞれの希望を聞いたり、100円ショップに出かけ、自分の好きなものを買うなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の行事を伝え、入浴時間など自分で決めてもらう。散歩、塗り絵、数独、体操、習字など好きなものへ参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容時のカラー・パーマの実施。入浴時にはご本人に洋服を選んでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の検品、切る→調理→配膳→片付けをそれぞれの入居者が得意とする部分に参加してもらっている。	職員本位に偏りがちになっていた献立を法人本部の栄養士の助言で改善向上させています。メニュー読み上げは食欲をそそり、毎月4回は季節、行事メニューがあるなど自由度を持たせた工夫があります。利用者と職員は自然な形で食事での業務分担が出来あがっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士から助言をもらいながら、介護職員、看護職員が情報を共有し支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせ、ハブラシ、クルリーナブラシ、ガーゼを使用。義歯は夜間消毒を実施。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけを行っている。また、パットの使用状況も定期的に確認している。	排泄パターン把握で声掛け誘導し、自立に向けた支援に取り組んでいます。リハパンからボクサーパンツまたは、それにパットを加えることで改善した例もあります。夜間帯は睡眠優先ですが、状態により声掛け誘導も行い個人に応じています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに牛乳や野菜を取り入れ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望に応じて入浴していただいている。また、入浴予定を伝え、1日のスケジュールを利用者自身に決めてもらっている。	入浴は朝に時間帯や希望を聞いて毎日の入浴希望にも対応し、週2~3回(本人希望による清拭を含む)が叶っています。浴室にはヒーターが設備され、安全に配慮した1対1の介助で職員との会話が弾み、またお茶ガラの湯や菖蒲、柚子などの行事湯で楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた静養時間の確保。また夜間ぐっすり眠れるよう、日中の活動量の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のファイリング実施。また、薬の効用、副作用の勉強会を実施。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おはぎ作りや書道展への出展など、個々に応じた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員間の連携を密にし、入居時の希望に応じて外出してもらっている。花カフェにおしるこを食べに行くなどの活動をしている。	散歩コースは距離を選んで、隣の特養、お寺、松原公園などに頻回に出掛けて外気浴を楽しんでいます。キーパーソン以外の家族とも外出し、昔を思い出す機会に恵まれています。人気の花カフェでは、お汁粉を食べ、庭の散策などで季節を感じることもできています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理の下、お金を持っている方もいる。食費より出費し、好きなおやつを買いに行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎを行っている。暑中見舞い、年賀状の発送をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	非常口、トイレにカーテンを取り付けている。また、足を伸ばして過ごせるよう畳コーナーを設けたり、バルコニーで日向ぼっこができるよう工夫している。	アイボリーを基調とした居間には柔らかな光が注ぎ、木目の腰板で和の趣きが出来あがっています。畳のスペースでは寛ぎ憩うこともでき、マガジンラックには週・月刊誌が並び知の落ち着きがみられます。衛生管理点検表では換気、温・湿度など、清潔度の高さが確認できます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム全体がフローリングのため、居間に畳コーナーを設置し、入居者が足を伸ばしてくつろげる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒の持込や、家族の写真を飾ったりしている。	部屋入り口には利用者名の他に、本来の富士、細雪など和風の名前が付けられています。カーテン、ベッド、エアコン、押し入れが備え付けであり、趣味の油絵や手紙、写真、書道作品らを壁に飾り、思い思いの部屋づくりが出来ています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間や廊下等は車椅子やシルバーカー等を使用しても安全に使用できるような適切な広さを確保し、自立を促している。		